

令和元年度 学校マネジメントシート (3 月末)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		学校・家庭・地域の連携のもと『社会に役立つ人材の育成』に取り組む学校 ～知・徳・体の調和がとれた教育実践をとおして～
(2)	育みたい 児童生徒像	○自分自身を見つめ直し、夢に向かって、何事にも精一杯挑戦する意欲的な生徒。 ○基本的生活習慣を身につけ、社会のルールやマナーを守り、命の大切さや他人を思いやる心を持ち、いじめ防止に取り組める生徒。 ○部活動や生徒会活動、学校行事などに積極的に参加し、コミュニケーション能力を高めることができる生徒。
	ありたい 教職員像	○目指す学校像の実現のために、一人ひとりの生徒の適性、能力に応じた学習指導や生徒指導にカウンセリングマインドに基づき、粘り強く指導できる教職員。 ○風通しの良い学校風土と、教職員相互の対話により、学校や生徒の課題を共有し、一致団結して課題解決を図るとともにコンプライアンスの徹底に取り組む教職員。 ○自らの教育力の向上のために、ベンチマーキングや研修会等に参加し、教育活動により意欲的に取り組むことができる教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<生徒> 安心で快適な学習環境の中で、基礎学力の定着と希望進路の実現。 学校行事や部活動の充実。 <保護者> わかりやすい授業による学力の向上と希望進路の実現。自己教育力と規範意識の醸成。部活動の活性化。 <地域社会> 生徒の公共心やマナーが育成され学校への信頼度が高まる。 地域活動へ積極的に取り組める生徒の育成	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<保護者> 生徒や学校の適切な情報提供。 <中学校> 類型や体育科での専門的な学習の理解。 卒業生や学校の情報提供。 <地域社会> 開かれた学校。地域活動への参加と協力。 地域に貢献できる人材の育成。	<保護者> 本校教育活動への理解と参画。親と子のコミュニケーション。 <中学校> 効果的な指導のための情報共有と緊密な連携。 <地域社会> 本校教育活動への理解と協力（工業・介護実習、清掃活動、部活動）。
(3) 前年度の学校関係者評価等		・基礎学力向上、学習習慣の定着のための、新たな具体的な数値目標を設定してみてはどうか。 ・インターンシップに関して、企業や事業所の評価や満足度を指標にすることで、より改善課題が明確になるのではないか。 ・防災訓練などの地域活動に生徒が参加できるシステムが作れないか。 ・総勤務時間の縮減の意図は理解できるが、部活動の時間を削減することで学校の魅力化や活性化にマイナスにならないように取り組んでほしい。	
(4) 現状と課題	教育活動	・学校生活に自信や目的意識が持てない生徒も見受けられることから、一人ひとりの自己肯定感を育み、学習意欲を高め、基礎学力の向上を図るような授業改善等を行うことが必要である。 ・基本的生活習慣や規範意識の醸成を図り、相手の気持ちを推し量る心や態度を育成し、いじめを許さない・命を大切にすることやすべての人権に対する感覚を高める必要がある。	
	学校運営等	・生徒の家庭環境や特性、能力に応じた、学習指導や生徒指導をよりきめ細やかに行うために、組織体制や教職員の指導力向上に計画的、継続的に取り組む必要がある。 ・学校の現状や生徒の近況を、絶えず保護者や地域に情報発信することで、情報共有を図り、理解・協力・支援を受けるよう取り組む必要がある。	

3 中長期的な重点目標

教育活動	・学科や類型などの専門的な学習内容を充実させることで、より意欲的に生徒自らが学ぶ姿勢が身に付くようにする。 ・将来を見据えたキャリア教育をはじめとした進路指導の充実により、自己有用感や自己肯定感が高まり、希望進路の実現と定着を図る。 ・正しい倫理観や道徳観を身につけ、他者を思いやり、人権を尊重する意欲や態度、いじめを許さない心、命を大切にする実行力を育成する。 ・一人ひとりの生徒の能力・適性に応じた授業内容の工夫や公開授業や授業研究を行う等の授業改善を進める。
学校運営等	・学校の魅力をPRするための広報活動を工夫改善する。 ・本校への保護者・地域・中学生の期待度、中学校卒業者数の動静を注視し、教育課程の改編に取り組む。 ・教職員が、意欲的に業務に取り組み、やりがい感・満足度を高めるため、会議の効率化・休暇の取得・部活動の効率化・定時退校日の設定などに取り組み、総勤務時間の縮減を図る。 ・教職員、保護者、地域と情報や課題の共有化ならびにコンプライアンスマインドの醸成をはかり、信頼される学校づくりに取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	学ぶことの興味関心が高まる取組 【活動指標】 ・基礎学力診断テストの実施（4月実施） - 基礎学力向上トレーニング（1年）、朝読・朝学習・漢字検定（2年）、長期休業中の補講（3年） ・授業（3回）類型（2回）生徒満足度調査を実施 【成果指標】 ・生徒の満足度80%以上	基礎学力テスト4月17日 随時実施 夏期休業中に就職課外を 3日間実施 【満足度調査12月調査】 3年 94.6%・2年 97.1% 1年 93.1%・全体 94.9%	◎
キャリア教育の充実と進路実現	・2年生のインターンシップの実施 ・自動車工業類型、介護福祉類型による企業等実習 【活動指標】 ・参加生徒の割合20%以上 ・大学、専門学校との連携授業（体育科 3回以上） 【成果指標】 ・参加生徒の満足度90%以上 ・企業の満足度75%以上 進路ガイダンス、個別面談の実施 【活動指標】 ・1, 2年生は年間3回以上 ・3年生は年間5回以上 【成果指標】 ・希望進路実現100%	自動車工業類型 2年12名 ・工場見学（ホンダカーズ 三重北整備工場、 リサイクルセンター） ・職業訓練センター実習 3年16名 ・企業実習実施 （稲生高校周辺企業） 8社に2名毎派遣 介護福祉類型 3年15名 6施設に派遣 インターンシップ実施率 2学年67名（29.1%） 参加生徒満足度 99% 鈴鹿医療科学大学との連携 2学年	

		就職・進学ガイダンス 1.2年生：3回 3年生：5回 就職：100% AO入試：97%	
体育科の活性化	体育科生徒による、市内小中学生を対象に指導実習・学校行事運営への参画 【活動指標】 ・小中学校訪問5校以上 ・オープンスクール、体育祭の運営参画 【成果指標】 ・体育科生徒の満足度90%以上	体育科生徒授業・部活動含む 等 15回 284名参加 小学校訪問 満足度 96.2% オープンスクール 8月 252名 (280名) 10月 134名 (106名)	
資格取得の促進	・各種検定や資格の取得に向けた取り組み 【活動指標】 商業、情報関係資格取得、全商検定1級資格取得者の増加 JSBA バッジテスト5級（スノーボード） 漢字検定、英語検定、ニュース検定、食物調理技術検定、介護職員初任者研修課程の修了、ガス溶接技能講習 【成果指標】 珠算電卓、ビジネス文書、情報処理合格 5名 JSBA バッジテスト5級（スノーボード）合格 80%以上 漢字検定（3級合格 50%）、英語検定（50%）、ニュース検定3級、食物調理技術検定（2級 70%・3級 4級 100%）、介護職員初任者研修課程の修了（90%）、ガス溶接技能講習合格（90%）	【全商珠算電卓検定】 2級 100% 【全商情報処理検定情報部門】 1級 4% 2級 66% 3級 82.5% 【全商簿記検定】 2級 0% 3級 55% 【ITパスポート】 3名合格（今年度開始） 【色彩検定】 17名合格（合格率 前年比+5%） 【JSBA バッジテスト5級（スノーボード）】 5級 94% 【漢字検定】 3級 2年 52% 準2級 3年 15% 【英語検定】 3級：30名 準2級：2名 2級：1名 【ニュース検定】 キャリア類型（社会基礎） 3級：3年 46% 【食物調理検定】 食物調理類型 4級：2年 3級：2年 2級：3年 いずれも 100% 【介護職員初任者研修】 介護福祉類型 終了試験：13名取得	
基本的生活習慣や規範意識の醸成	全校集会、学年集会での訓話や全教職員による指導の徹底 【活動指標】 ・全職員による全校集会指導 ・各学期2回以上の全体指導及び頭髮服装指導の実施 【成果指標】 ・学校遅刻、授業遅刻の平成29年度の10%減少 ・特別指導件数の昨年度（平成30年度）20%減少	【頭髮服装指導】 各学期2回を実施 【特別指導件数】 R元：7件 15名 ※H30：15件 34名 55%減 【遅刻】 R元：学校遅刻 1019回(10%増)、授業遅刻 965回(60%)増で削減できず	※
人権意識の育成	人権を尊重する意欲・態度と正しい道徳観の育成 【活動指標】 ・講演及びソーシャルスキルトレーニング（SST）の実施 ・人権デーの実施（パラスポーツ体験）	人権 LHR：各学年各学期実施 SST：各学年各学期実施 人権講演：10月2日実施 SNS 講話：e ネットキャラバン 防災 HR：防災ノートの活用	

	・ SNS 講話、避難訓練防災講話、献血セミナー献血活動、性教育指導 ・ 普通救命救急講習の実施（教職員） ・ 全教職員による命を大切にする教育ならびに講演の実施		
部活動の活性化	運動部、文化部活動の奨励 部活動学校運営方針 【成果指標】 ・ 県総体総合 20 位以内 ・ 前年比、全国・東海大会出場者、県内大会入賞者増	県総体：16 位 全国高校総体： 優勝 1 名 入賞 1 名 国民体育大会：入賞 3 名 県大会以上入賞者 個人（ペア含む） 51 件 団体 11 件	※
改善課題			
・ インターンシップの参加率を上げて、職業理解を深めるとともに、基礎学力の向上や学習習慣の定着につなげていく必要がある。 ・ 学校遅刻及び授業時刻の割合が増えているので、基本的生活習慣を確立させていく上においても、遅刻の割合を減らしていく必要がある。			

（２）学校運営等

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学校の魅力化	体育科の充実と「地域人材育成型（仮称）」普通科を目指した特色あるカリキュラムの改編 【活動指標】 ・ 各専門的な学習内容の充実に向けた工夫、改善 ・ 関係機関、団体との連携調整 ・ ボランティアや地域活動に参加、協力	令和 2 年度入学生教育課程の再編：普通科 3 クラス、体育科 2 クラス 異校種交流（小・中・大学・専門学校）	◎
授業力の向上及び資質向上	授業公開による授業改善、校内研修の実施 【活動指標】 ・ 授業公開、教員相互の授業見学を年間 2 回実施 【成果指標】 ・ 授業満足度 80 % 以上（再掲）	授業公開週間の実施 2 回 職員研修：学習評価、特別支援教育、いじめの理解について （再掲）	※
情報発信による地域、保護者との連携促進	学校ホームページやフェイスブック、きずなネットの活用による情報発信、地域活動との連携 【活動指標】 ・ 校内外の活動を随時、迅速に発信 ・ ボランティアや地域活動に参加、協力（再掲） 【成果指標】 ・ ホームページ更新 月 1 回	地域活動への参加 8 回 130 名参加 ・ 稲生地区助け愛ネット ・ 稲生地区サマーフェスタ ・ 稲生地区防災訓練 随時更新	

教職員の満足度の向上	総勤務時間の縮減の取組 ※（ ）内数は H30 年度 【活動指標】 ・月 1 回の定時退校日、定時退校できた職員 90% (87.2%) ・週 1 日の部活動休業日を設定、予定どおり休養日の設定ができた部活動 90% ・各種会議時間を 60 分以内に短縮 85% (67%) 【成果指標】 ・教職員年間休暇取得日数を昨年度比年平均 2 日以上増加（メモリアル休暇等の取得）（22.5 日） ・時間外勤務時間の昨年比 月 4 時間削減 (27.9 時間) ・月 80 時間超の実人数 50%削減（16 名）	・定時退校日 92.9% ・部活動休養日 99.8% ・会議短縮 83% ・休暇取得 26.2 日 ・時間外平均 26.1 時間 ・80 時間超 10 名	※
経費の効率的な活用	学校運営費の節減取組 【活動指標】 ・居室退室時のチェック徹底 ・経費節減について企画委員会等で意見交換 【成果指標】 ・電力、水道使用量前年比 3 %削減	・電力使用量 14%減 ・水道使用量 14.9%減	
改善課題			
・新学習指導要領の実施に向けて、特色あるカリキュラムを検討し、策定していく必要がある。 ・教職員の総勤務時間が縮減されるよう、意識改革及び業務の見直しをすすめ、教職員の満足度向上に努めていく必要がある。			

5 学校関係者評価

明らかにした改善課題と次への取組方向	・学校遅刻や授業遅刻の割合が増えているので、理由を分析し、家庭とも連携を深めて、割合の減少に努めていく必要があるのではないか。 ・地域との連携をすすめていく活動において、相手方（小学生や中学生等）へのアンケート調査を行い、満足度を把握することによって、改善につなげていくことができるのではないか。
--------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・生徒の基本的な生活習慣や学習習慣を確立するため、家庭と連携をすすめていくとともに、授業の改善に努め、組織的に教育活動に取り組んでいく。 ・人権教育や道徳教育等を充実させることで、人権を尊重する態度を育み、生徒が充実した学校生活を送ることができるよう取り組んでいく。
学校運営についての改善策	・地域との連携をした活動においては、学校側からも要望や提案を積極的に行い、地域貢献に利するとともに、生徒の自己肯定感を高め、充実した活動となるよう取り組んでいく。 ・総勤務時間縮減の取組をすすめるため、設定された時間外労働時間を超えることのないように、業務内容や業務の分担方法を見直し、効果的、効率的に業務が遂行できるよう創意工夫を凝らしていく。